

上宮寺通信

第八十八号

師走

早いもので今年も最後の月となりました。12月と聞いただけで気忙しい気分になってしまうのですが、12月は別名「師走」ともいわれます。

「師走」の由来として、「師」とは僧侶のことを指し、ふだんは落ち着いてせかせかと動き回らない僧侶もこの月だけは忙しく走り回るといふことで、「師走」となったという説が有名です。

ほかにも四季の終わりや年の終わりを意味する「四極(しはつ)」や「年果つ(としはつ)」などの言葉が変化して「しはす」となり、「師走」という漢字が当てられたという説もあります。

では、本当に僧侶はこの時期は忙しいのでしょうか？

私の感覚でいえば、この時期は親鸞聖人の報恩講が別院をはじめ各寺院で勤められたり、年始の準備をしたりと、ふだんよりはやることが多いのは確かです。ですから忙しいといえは忙しいのですが…。

しかし、地域によっては本当に走り回るほどの忙しさの僧侶もいます。

浄土真宗では11月頃から報恩講の時期となります。古くから報恩講は寺院で勤められるだけでなく一般の家庭でも勤められてきました。それは「お仏事」とか「お取り越し」という名前と呼ばれています。いまでは「お仏事」「お取り越し」を勤められ

る家庭は非常に少なくなってきましたが、少し田舎のほうへ行くとまだまだ勤められています。

ですから、この時期は「お仏事」で一日に何軒も何十軒もお参りに出かけるという知り合いの僧侶もいます。それを考えると、僧侶が走り回る「師走」というのも納得できます。

しかし、年の瀬が迫ると、僧侶に限らず年始の準備を控え、あわただしくなってきます。忙しいという漢字は、心や感情を意味する「忄(りっしんべん)」に「亡くす」と書きます。忙しいといついつい大事なことを忘れてしまうのです。

「急いては事を仕損じる」ということわざのように、慌てて

行動するとかえって失敗してしまうということも。「あれもこれもやらなくては…」とならずに、「これだけはしっかりやろう」と心を落ち着かせることが大事だと思います。

マンガ「一休さん」のように「あわてない、あわてない」を心がけて、この「師走」を過ごしたいものです。



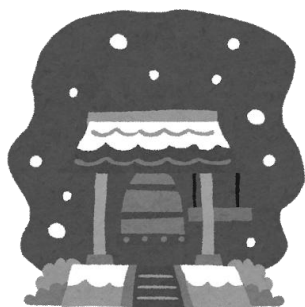
◆行事案内

修正会

1月1日(元旦・木)

午後2時～

※ご参詣の皆様と『正信偈』のおつとめをします。おつとめの後、恒例のビンゴ大会を行います。



名古屋別院 報恩講
12月13日(土)～18日(木)

◆話題あれこれ

○天候にも恵まれた11月8日の報恩講には多くの方にお参りをいただきありがとうございます。

○11月27日の東本願寺報恩講団体参拝にも多くの方のご参加をいただきありがとうございます。今年は全体的に参詣者が多く、団参当日も衆僧の近くの前のほうでお参りができなかつたようでしたが、衆入りの法要はいかがでしたでしょうか。

○本山の報恩講も無事に終わることができました。24日と28日に音頭(主管)をさせてもらったのですが、とても緊張しました。

○13日から18日まで名古屋別院(東別院)の報恩講がつとまります。皆様もご都合つきましたら、ぜひお参りください。

○元旦の午後2時から修正会があります。皆さんと一緒に正信偈同朋奉讃をおつとめしますので、ぜひ年の始めにお寺へお参りください。

○今年も最後の月になってしまいました。なにかと忙しいですが、体調に気をつけて良い年をお迎えください。

○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。



ホームページ



公式 LINE

【雑感】

東本願寺の報恩講が終わり、名古屋に帰る前にせっかく京都に來たのだからどこかへ行こうと思い、新選組ゆかりの壬生寺に行ってきました。「誠」の字が入った羽織や隊旗が有名で、武術に優れてかつこいいイメージがある新選組ですが、京都では傍若無人であり評判が良くなかったそうです。そんなこともあってか、壬生寺にも新選組に関するものは思ったほどなく、拍子抜けしてしまいました。ただ、壬生寺近くの和菓子屋さんで買った「きんつば」はとてもおいしいーこれはおすすめですよ。
(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号
☎052-871-0547